

## 「長期生存孤発性 Creutzfeldt-Jakob-Disease におけるプリオン蛋白陽性凝集構造体の検討」に関する情報公開

当センターでは、東京都健康長寿医療センター高齢者ブレインバンクに登録された方を対象に下記の共同研究を実施します。病理解剖の際に医科学研究への協力にご承諾をいただいておりますが、改めて本研究へのご協力を承りますようお願いいたします。

なお、この研究の研究対象者に該当すると思われる方の中で、ご自身の情報等をこの研究に使ってほしくないと思われた場合にも、あるいは研究の詳細についてお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ担当者までご連絡ください。

### 研究の名称

長期生存孤発性クロイツフェルト・ヤコブ病におけるプリオン蛋白陽性凝集構造体の検討

### 研究の対象

2001年7月～2020年3月に東京都健康長寿医療センター高齢者ブレインバンクに登録された方の内、病理診断により孤発性クロイツフェルト・ヤコブ病(Creutzfeldt-Jakob-disease)と診断された方。

### 研究の期間

倫理委員会承認後から2025年3月まで

### 研究の目的

孤発性クロイツフェルト・ヤコブ病(Creutzfeldt-Jakob-Disease/sCJD)は進行が速く、発症後の平均生存期間は4～6か月ですが、延命治療が行われることで1年以上生存する場合(長期生存孤発性クロイツフェルト・ヤコブ病・sCJD-LS)があります。近年、我々はsCJD-LSの症例に新たなプリオン抗体陽性の凝集構造体を見出しました。本研究では、この集構造体の性質を調べ、その特異性を明らかにいたします。これにより、プリオン蛋白の新たな分子病理学的知見が得られ、プリオン病の病態解明につながる可能性があります。

### 研究の方法

脳組織をホルマリン固定し、国際病理診断基準に従い約30箇所(パラフィン包埋切片)を作製します。各種の組織学的染色および免疫染色を行い顕微鏡下に定性的な神経病理学的評価を行います。得られた結果と、年齢、性別、罹病期間、凝集構造体の数や密度などとの関連性について検討します。

### 研究に使用する試料・情報

孤発性クロイツフェルト・ヤコブ病と病理診断された方の脳組織、研究対象者背景情報(死亡時年齢・発症時年齢・性別・罹病期間・初発症状・臨床経過、既往歴、内服歴、生前臨床診断名)

### 研究組織

東京都健康長寿医療センター	研究責任者	齊藤祐子(研究代表者) 村山繁雄
北海道大学	研究協力者	田中伸哉
愛知医科大学加齢医学研究所	研究協力者	岩崎 靖

お問い合わせへの対応

本研究に関するご質問や資料閲覧のご希望は、下記の問い合わせ先にご連絡下さい。

研究計画書や研究方法に関する資料については、ご遺族の希望に応じて、他の研究対象者や研究者に不利益が及ばない範囲内で、ご覧になることができます。また、研究への協力撤回を表明された場合は、速やかに研究での利用を停止いたします。研究に協力されない場合でも不利益な扱いを受けることはありません。しかしながら、すでに研究に使用されていた場合には、結果の削除など十分なお対応ができない場合がありますことをご了承ください。

【問い合わせ先】

〒173-0015 東京都板橋区栄町 35 番 2 号

東京都健康長寿医療センター

高齢者ブレインバンク/神経病理 齊藤祐子

電話 03-3964-3241 内線 4419 (平日 9:00~17:00)